

鎌倉大仏殿高德院



<http://digitalarchiveproject.jp/information/鎌倉大仏殿高德院/>



■鎌倉大仏

「露坐の大仏」として名高い高德院の本尊、国宝銅造阿弥陀如来坐像。像高約 11.3m、重量約 121t を測るこの仏像は、規模こそ奈良東大寺の大仏（盧舎那仏）に及ばぬものの、ほぼ造立当初の像容を保ち、我が国の仏教芸術史上ひととき重要な価値を有しています。北条得宗家の正史『吾妻鏡』によれば、その造立が開始されたのは 1252（建長四）年。制作には僧浄光が勧進した浄財が当てられたとも伝えられています。もっとも、創建当時の事情には不明な部分が多く、未だ尊像の原型作者すら特定されるに至っていません。当初尊像を収めていた堂宇については、『太平記』と『鎌倉大日記』に、1334（建武元）年および 1369（応安二）年の大風と 1498（明応七）年の大地震によって損壊に至ったとの記録を見いだすことができます。以後、露坐となり荒廃が進んだ尊像は、江戸中期、浅草の商人野島新左衛門（泰祐）の喜捨を得た祐天※・養国の手で復興をみました。尊像の錆掛修復に着手し、「清浄泉寺高德院」と称する念仏専修の寺院を再興、当時、浄土宗関東十八檀林の筆頭であった光明寺の「奥之院」に位置づけたのも、祐天の事績にほかなりません。今日、創建 750 年余を経た尊像は、仏教東伝の象徴として、国内外、宗派の別を問わず数多の仏教徒の信仰を集めています。

※ 小石川伝通院の住職を務めた後、増上寺第 36 世法主を拝命した高僧

■高德院の宗旨

高德院（詳名：大異山高徳院清浄泉寺）は、法然上人（1133 ～ 1212 年）を開祖とする浄土宗の仏教寺院です。法然上人は、善悪、男女、年齢、身分などの別なく、万人の救済を本願とされる西方極楽浄土の教主、阿弥陀如来に帰依されました。人は誰も「南無阿弥陀仏（阿弥陀仏に帰依します）」と称えれば、その御加護に与ることができ、臨終に際しては極楽浄土に迎え入れていただける。これが法然上人の説かれた浄土宗の教えです。

（引用：<https://www.kotoku-in.jp/about.html>）



0001_鎌倉大仏殿高德院



0002_鎌倉大仏殿高德院



0003_鎌倉大仏殿高德院



0004_鎌倉大仏殿高德院



0005_鎌倉大仏殿高德院



0006_鎌倉大仏殿高德院



0007_鎌倉大仏殿高德院



0008_鎌倉大仏殿高德院



0009_鎌倉大仏殿高德院



0010_鎌倉大仏殿高德院



0011_鎌倉大仏殿高德院



0012_鎌倉大仏殿高德院



0013_鎌倉大仏殿高德院



0014_鎌倉大仏殿高德院



0015_鎌倉大仏殿高德院



0016_鎌倉大仏殿高德院



0017_鎌倉大仏殿高德院



0018_鎌倉大仏殿高德院



0019_鎌倉大仏殿高德院



0020_鎌倉大仏殿高德院



0021_鎌倉大仏殿高德院



0022_鎌倉大仏殿高德院



0023_鎌倉大仏殿高德院



0024_鎌倉大仏殿高德院



0025_鎌倉大仏殿高德院



0026_鎌倉大仏殿高德院



0027_鎌倉大仏殿高德院



0028_鎌倉大仏殿高德院



0029_鎌倉大仏殿高德院



0030_鎌倉大仏殿高德院



0031_鎌倉大仏殿高德院



0032_鎌倉大仏殿高德院



0033_鎌倉大仏殿高德院



0034_鎌倉大仏殿高德院



0035_鎌倉大仏殿高德院



0036_鎌倉大仏殿高德院



0037_鎌倉大仏殿高德院



0038_鎌倉大仏殿高德院



0039_鎌倉大仏殿高德院



0040_鎌倉大仏殿高德院



0041_鎌倉大仏殿高德院



0042_鎌倉大仏殿高德院



0043_鎌倉大仏殿高德院



0044_鎌倉大仏殿高德院



0045_鎌倉大仏殿高德院



0046_鎌倉大仏殿高德院



0047_鎌倉大仏殿高德院



0048_鎌倉大仏殿高德院



0049_鎌倉大仏殿高德院



0050_鎌倉大仏殿高德院



0051_鎌倉大仏殿高德院



0052_鎌倉大仏殿高德院



0053_鎌倉大仏殿高德院



0054_鎌倉大仏殿高德院



0055_鎌倉大仏殿高德院



0056_鎌倉大仏殿高德院



0057_鎌倉大仏殿高德院